

授業改革推進リーダー・推進員からの情報提供 ～児童生徒が主体的に学ぶための手立て～

各校において、全国及び県学力・学習状況調査結果から把握した課題の解決に向けて、全職員で焦点化した取組を進めていただいていることと思います。

新学習指導要領では、これまでの学校教育の蓄積を生かし、学習の質を一層高める取組を活性化していくために、優れた教育実践に見られる普遍的な視点である「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進することが求められています。

授業改革推進東備チームは、第1回第東備地区研究協議会において、40名の指導教諭・学力向上担当の皆さんと共に、各校での実践も踏まえ『主体的な学びを実現するための手立て』について、協議、整理し資料をまとめました。

本号では、その手立てについて、県外視察で得た知見とともに紹介します。

【東備地区研究協議会より】

主体的な学びを実現するための授業者の手立てと児童生徒の『主体的な学びの姿』

	イメージ	授業者の手立て	児童生徒の『主体的な学びの姿』
導 入	 見通しを持つ	<ul style="list-style-type: none"> ○めあてを提示する。 ○授業の流れをパターン化する。 ○結果（こうなりそう）や、方法（こうやったらよさそう）の見通しを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○めあてが共有できている。 ○やるべきことがわかっている。 ○「できそう」「できるかも」「やってみたい」と思うようになっている。思考が活発になっている。
	 自分と結び付ける	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な生活場面の絵等を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分事として「考えてみよう」という意欲を持っている。
	 興味や関心を高める	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の意欲を喚起する「声かけ」と「間」のある話し方をする。（「すごいなあ。」「みんなにも説明してもらおうよ。」「解けそう？」「全員にわかかってもらいたいなあ。」など） ○前時との違いを見付けさせる。 ○具体物・半具体物を提示し、操作させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味を示している。自発的に「意味のある発言（つぶやき）」をしている。 ○興味・関心が高まっている。 ○すべての児童生徒が「考えてみよう」という意欲を持っている。自力で考えようとしている。
展 開	 粘り強く取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ○考える時間を確保する。 ○個々の児童生徒に適した課題やヒントカードを準備する。 ○ペア・グループで多様な考えを出させる。 ○具体的な話型を示す。 ○ホワイトボード・ICT機器などを利用させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全員が考えようとしている。 ○全員が課題に取り組むことができている。 ○様々な解決法で課題に取り組んでいる。 ○個々の考えを伝え合っている。 ○自分の考えと比べて聞いたり、話したりしながら課題解決をしている。
	 振り返って次へつなげる	<ul style="list-style-type: none"> ○児童生徒の言葉を生かしながら、教師がわかりやすくまとめる。 ○振り返りの観点を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の学びを振り返っている。 ○「めあて」を意識して振り返っている。

協議時間が短かったため、展開・終末の手立てが少なくなっていますが、児童生徒が主体的に学ぶ姿は、全ての学習場面において、発揮されることが求められています。「岡山型学習指導のスタンダード」の授業ファイブ「①めあてを示す。②自分で考え表現する時間を確保する。③目標の達成度を確認する。④学習内容をまとめる。⑤授業の振り返りをする。」を実践していく中で、学びへの積極的な関わりを引き出す指導方法や環境を工夫したり設定したりすることが、重要なのではないのでしょうか。

【県外先進校視察より】

「確かな学びをつくる授業の工夫～アクティブ・ラーナーの育成を目指して～」という研究主題で授業研究に取り組まれている、山形県村山市立楯岡中学校の校内授業研究会の学習指導案には、「主体的・対話的・深い学びの三つの視点」が記載されていました。視点が明確に示されていて分かりやすく、校内の授業研究などで活用できそうです。

第1学年2組数学科学習指導案(抜粋)

単元の指導計画

単元の流れ	主な学習活動と予想される課題	関	見	技	知	視点1 主体的な学びの工夫 視点2 対話的な学びの工夫 視点3 深い学びの工夫
1 本時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">正方形の花壇をつくるために必要な杭の数は何本だろうか。</div> <p>文字式を使った式で表し、文字を使った式のよさを理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">多様な考え方で求めた全体の本数を表す式は、同じになるのだろうか。</div>		①			視点1 (1)課題設定の工夫 単元の導入では、日常生活で数学を利用することのできる課題を設定し、数学を学ぶ必要感を得られるようにする。
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">どんな数量でも、文字を使った式で表すことができるだろうか。</div> <p>量を文字を使った式で表す。</p>		①			複数の式で表せることから、全て同じになるのだろうかといった疑問を持ち、単元を通して課題解決に向かうことができるようにする。 (2)課題解決の見通し予想を取り入れ、問題に対する知的好奇心を揺さぶれるようにする。 何を求めるか、何がわかればよいのか、どのように調べるのがよいのかを明確にして課題解決に向かわせる。 視点2 (1)効果的な学習隊形 4人のグループでは、数学的表現を用いて、説明し伝え合う活動を行う。その後ペアで説明し合うことで定着を図る。

本時の指導

1. 目 標 花壇の杭の本数の求め方を、文字式に表し、その理由を説明することができる。
2. 指導過程

学習活動	主な発問(○) 指示(●) 予想される反応(・) 評価(◎)	時間	研究主題との関わり(・) 支援(●)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">東沢バラ公園に楯中生で花を植え、バラ祭りを盛り上げるようになりました。1辺に同じ本数の杭を並べて正方形の花壇をつくります。1辺にn本ずつ並べると杭は何本必要だろうか。</div> <p>1 正方形の1辺に何本並んでも、杭の本数を求められるように、方法を考える。(一斉)</p>	○1辺に10本ずつ並べたら、杭は何本必要ですか。 ・36本 ○求めるには何が必要ですか。 ・図・式・表	10	・村山市から楯中生への依頼という場面設定にすることで解決への必要感を持たせる。(課題設定の工夫) ・1辺に並ぶ本数が多くなると求めるのが難しくなることから、効率よく求めるためにはまとまりをつくって数える必要があることを確認し、図に囲みを入れ、式を考えさせる。(課題解決の見通し)
正方形の1辺にn本ずつ並べて花壇を作るのに、杭は何本必要だろうか？			
2 正方形の1辺に10	●1辺に10本ずつ並べたら、	10	・事象を多面的にみる力を育むことができるように、